

図書館情報リテラシー：コンテンツの拡充と図書館における活動

図書館では、従来から、新入生オリエンテーション、情報検索講習会など、各館ごとに図書館情報リテラシー教育を実施してきた。2006年3月には「図書館情報リテラシーに係る企画・運営」が正式に情報管理課の事務分掌に追加され、情報管理課では各図書館・図書室と協力して、図書館ウェブサイトの見直し、オンデマンドのコンテンツ作成など、主にオンラインでの情報提供の充実に取り組むこととなった。

各図書館・図書室でも、学部・研究科と連携したオリエンテーションの開催、教員と連携した講習会開催・授業支援、教材の開発と提供といった試みが始まっている。

1 新入生への図書館オリエンテーション

情報管理課では2006年秋から、新入生向けの図書館ガイドとして、「図書館クイックガイド」を作成している(図1)。

各図書館のガイドはこれまでも存在したが、このガイドでは、電子資料の探し方、オンライン申込み、学外アクセス、携帯ホームページなど、非来館型サービスも含めた全学の図書館サービスを案内しているのが特徴である。A4カラー両面1枚の印刷版とウェブ版をそれぞれ日本語・英語で作成し、春入学・秋入学の新入生全員に印刷版を配布するほか、図書館トップページにバナーを配置する、入学手続き類に同封されている「新入生 Start-Up CD-ROM」で案内するなどして広報している。また、新入生に限らず、図書館サービスを初めて利用する方のガイドとしても利用している。

中央図書館では「図書館クイックガイド」を新入生全員に配布するようにしたこと、2003年4月公開のウェブ版図書館案内「図書館NAVI：中央図書館編」(<http://www.wul.waseda.ac.jp/CLIB/navi/>)が定着してきたことから、新入生対象の図書館オリエンテーションを中止した。「図書館NAVI」の「館内ツアー」では、従来、館員が行っていたツアーを疑似体験できるようになっている。

キャンパスによっては、新入生対象の図書館オリエンテーションを引き続き開催しているが、開催時間や案内方法を工夫したり、学部・研究科と連携して新入生オリエンテーションのプログラムに組み込んだりして、参加率をあげるよう努めている。(表1)



表1 新入生オリエンテーション開催状況

2007.4.2	人間科学部(所沢図書館) 30分。700人参加。学部オリエンテーションの枠内で実施。
2007.4.3	スポーツ科学部(所沢図書館) 30分。500人参加。学部オリエンテーションの枠内で実施。
2007.4.3	人間科学研究科・スポーツ科学研究科(所沢図書館) 50分。180人参加(在学生含む)。「論文作成のためのデータベース検索法」と題し、研究科オリエンテーションの枠内で実施。
2007.4.4	情報生産システム研究科(情報管理課) 日英計3回開催。各60分。計110人参加(在学生含む)。
2007.4.6	基幹理工学部・創造理工学部・先進理工学部(理工学図書館) 計5回。各40分。計1,240人参加。

2 講習会の開催

各図書館・図書室では、教員からの依頼に応じて、授業・ゼミ・専攻単位での講習会を開催している。また、図書館・図書室で企画した文献データベース講習会、情報検索講習会も開催している。(表2)

表2 講習会開催状況

2007.4.4	卒論・修論のための学術情報リテラシー(理工学図書館・各データベースベンダー講師) 延べ600人参加。
2007.4.17	法学部・加藤哲夫ゼミ1年生対象講習会(情報管理課・総合閲覧課) 39人参加。
2007.5.10	データベース検索講習会(所沢図書館) 計9回開催。計374人参加。ゼミ単位の先行予約制と個人予約。
2007.5.31	文学研究科・西洋美術史・坂上桂子研究室院生対象講習会(戸山図書館) 11人参加。
2007.6.8	法律データベース講習会(法律文献情報センター・各データベースベンダー講師) 計8回開催。延べ45人参加。
2007.6.28	RefWorks講習会(情報管理課・RefWorks代理店講師) 10人参加。
2007.7.7	第二文学部・日高洋子ゼミ4年生対象講習会(戸山図書館) 10人参加。
2007.7.10	商学部・辻山栄子ゼミ3-4年生対象講習会(情報管理課・商学部教員図書館) 45人参加。
2007.7.23	文学部・千野拓政ゼミ2年生対象講習会(戸山図書館) 11人参加。
2007.10.5	教育学部・生物学専修3年生対象講習会(情報管理課・教育学部教員図書館) 40人参加。
2007.10.12	法律データベース講習会(法律文献情報センター) 計7回開催。延べ27人参加。
2007.10.24	文学学術院・英文・榎本伸明研究室対象講習会(戸山図書館) 9人参加。
2007.11.12	第一文学部・心理学専修3-4年生対象講習会(戸山図書館) 22人参加。
2007.12.20	第一文学部・藤本陽子ゼミ3年生対象講習会(戸山図書館) 7人参加。

授業・ゼミ・専攻単位の講習会では、担当教員・助手と事前に打ち合わせを行い、受講者の興味に合わせたテーマを設定している。また早稲田大学の共通基盤システムであるWaseda-netポータルを利用し、受講者アンケートを行って講習内容の参考にしたたり、参加申込の受付事務の効率化を図ったりする試みも行われている。

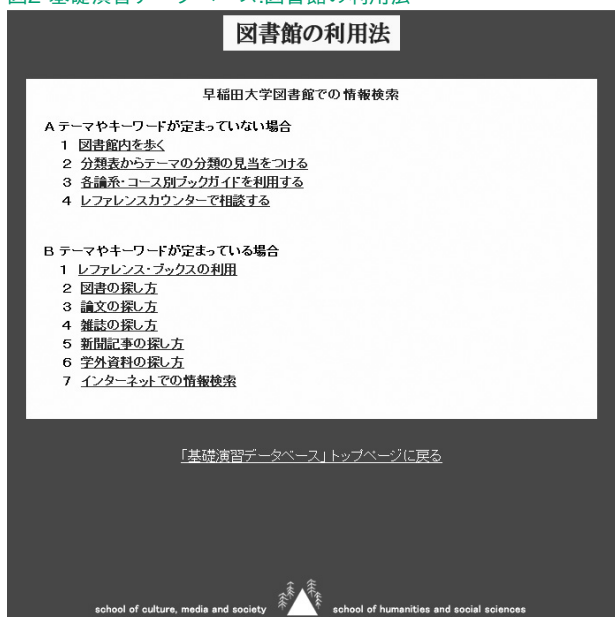
文献データベースの紹介については、ベンダーから講師を招く場合もあるが、多くは、館員が講師を務めている。講習会を

開催することで、受講者だけでなく、館員自身が文献データベースをより深く理解し、使いこなせるようになるという利点もある。さらに、講習会をきっかけに既存のガイドを見直す、受講者からのフィードバックをガイド作成のヒントにする、講習会資料を一般向けガイドに仕立て直すなど、教員や学生からの生の声を聴き、図書館サービスを見直す良い機会ともなっている。

3 授業支援

戸山図書館では、2007年度から文化構想学部・文学部1年生の必修科目となった「基礎演習」の授業支援を始めた。図書館での情報検索について解説する「図書館の利用法」と題したコンテンツを作成し、受講者用ウェブサイト「基礎演習データベース」に掲載している(図2)。

図2 基礎演習データベース:図書館の利用法



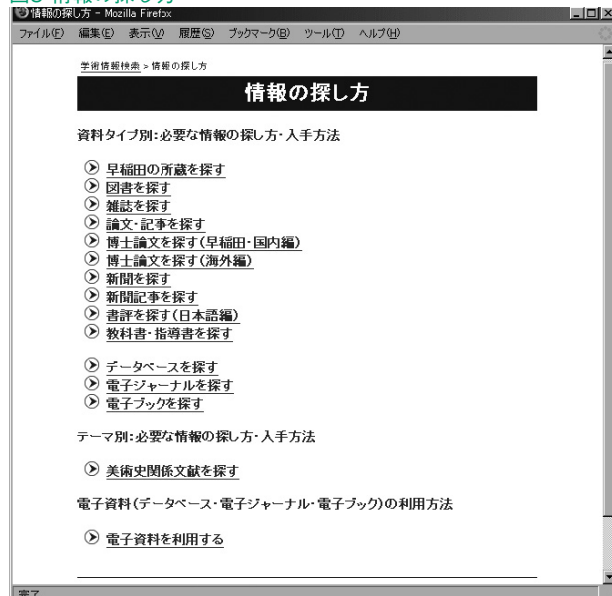
さらに、教員からの要望があったクラス(全69クラス中38クラス、計10回、875人)について、「基礎演習」の1コマを館員が担当し、「図書館の利用法:情報リテラシーははじめの一步」と題して講義を行った。2008年度からは、この講義を早稲田大学授業支援ポータル「Course N@vi」上でオンデマンド教材として提供することになっている。

所沢図書館では、人間科学部1年生必修科目「基礎演習」が設置されたことを受け、その中で情報リテラシーに関する授業支援を全27クラスを対象に行った。教材には『情報の達人』(DVD版、紀伊国屋書店2007年2月刊行)を用い、上映後、担任による解説が行われた。2008年度からは、「Course N@vi」所沢キャンパス限定のオンデマンド教材としても活用する予定である。

4 コンテンツの拡充

2007年3月から、図書館の「学術情報検索」ポータルサイトにおいて、情報リテラシーガイド「情報の探し方」(<http://www.wul.waseda.ac.jp/imas/guide/howtofind/>)を公開している(図3)。

図3 情報の探し方



中央図書館では毎年春と秋に情報検索講習会を開催していたが、開催回数の限界もあり参加人数は限られていた。2007年度からはこの講習会の開催を中止する代わりに、資料を「情報の探し方」のコンテンツとして公開することで、必要ときに必要な情報を参照できるようにした。さらにレファレンス担当者のメモとして各図書館・図書室で個別に蓄積していた情報検索のノウハウを一般的なガイドとして再構成し、図書館ウェブサイトを集約して公開している。

このようなコンテンツを公開する場合の課題のひとつに、継続的に維持管理する体制づくりがある。「情報の探し方」は、一時的なプロジェクトとして制作するのではなく、各図書館・図書室の担当者が、日常業務の一環として制作し、維持管理することを目指している。そのため、公開当初の原稿を作成した部署が、その後の内容のメンテナンスもあわせて担当することを原則としている。情報管理課では各図書館・図書室から新規コンテンツの原稿を募集し、担当者と相談しながら、編集・制作を担当している。

今後も、電子媒体資料やツールの使い方を自習方式で学べる動画コンテンツ「オンライン・チュートリアル」(<http://www.wul.waseda.ac.jp/imas/guide/tutorial.html>)とあわせて、自学自習支援、または講習会のパーツ教材として利用できるコンテンツを引き続き公開していく。